

## 2. 現地踏査フィールドノート

### 第一次現地踏査フィールドノート

3月2日(水)	11:00-12:00	Balway Village	Sagaing Division
面会者	氏名	役職	所属先
調査団全員	U Win Myint	Chaung Oo T/S Office Manager	MAS
	U Myat Kyaw	Village Leader	Balway Village
要点			
<ul style="list-style-type: none"> <li>村は800~1,000年前にできたもので、320世帯、約1,700人(男性800人、女性900人)が住んでいる。うち137世帯が土地無しである。</li> <li>主要農作物は落花生、キマメ(ピジョンピー)、ゴマである。落花生とキマメの混作、ゴマと豆類の混作を行っている。</li> <li>農作物は収穫後すぐにモンユアの卸売市場に売りに行く。収穫期には毎日トラクター(村人1名が所有)で村内の収穫物を運ぶ。収穫期以外は、女性が牛車で運ぶ。仲買人が村に買い付けに来ることは稀である。</li> <li>農外収入としては、シャン州での茶摘みがある。土地無し農民が出稼ぎに行く。</li> <li>その他、ヤギ(肉用)、ブタ、羊、鶏の飼育、女性は縫い物(衣服作り)がある。縫い物に従事している女性は少ないが、稼ぎは約20,000チャット/月程度である。</li> <li>困ったことがあった場合は、村長に相談する。</li> <li>財産(土地)分与は性別に関係なく、子どもの間で均等分割される。</li> <li>学校は小学校(4年生)までしかない。</li> <li>飲料等の水源はため池に依存。同村には四つのため池が、うち一つが飲料用。過去に、UNDP等の支援を受け、農民が労働力提供し建設した。毎年、堆積した土砂の除去などの作業が必要であり、村民が労力を提供している。</li> </ul>			

3月2日(水)	14:00-15:00	Khin Mun Village	
面会者	氏名	役職	所属先
調査団全員	U San Nyunt	T/S Officer	PACT Myanmar
	U Kyaw Sei	Secretary	PACT Myanmar
要点			
<ul style="list-style-type: none"> <li>村にはマーケット協同組合が二つ、貯蓄・貸付組合が二つの計四つの協同組合がある。それぞれ会員数は200名、130名、89名、247名である。</li> <li>マーケット協同組合は、貸付期間40日間のローン、緊急時ローン、長期ローン(1年間)などがある。貸付金額は1万~3万チャット。1件につき2名の保証人が必要である。</li> <li>メンバーは商売をしている人で、毎日収入があれば誰でも入れる。ビジネスの種類は、野菜の販売(転売、売り子)がほとんどであり、店舗を構えている必要はない。収入は約2万チャット/月。</li> <li>コミッティは、議長、秘書、メンバー(1名)、内部監査役(2名)から成る。議長はメンバーにより</li> </ul>			

選出される。

- ・ 最初に出資金を出す。1株 500 チャットで何株でも買える。
- ・ 貯蓄・貸付組合の入会条件は、18歳以上で毎日の収入がある人(職種制限はない)。1株 1,000 チャットを購入する。
- ・ 貸付金額の上限は、保有株金額と貯蓄額の合計の4倍まで。
- ・ 出席者の中に、電力事業を実施する Society の参加者あり。
- ・ Society は、300 住居の村民により構成されており、300 人のメンバーで構成。
- ・ 電力事業は、Society の利潤分で実施。以前には村落給水も実施。

3月2日(水)	15:30-17:00	Khin Mun Village, PACT site	
面会者	氏名	役職	所属先
湯川、渡辺	U Sai Hain Dung	T/S Project Officer	PACT Myanmar
		Beneficiaries	

要点

- ・ PACT が MF 活動を実施しているサイトで、落花生のお菓子や竹細工、トマトジャムなどを生産・販売している。生産技術は既存のものを活用し、UNDP や PACT からの新たなインプットはなされていない。
- ・ PACT はノンフォーマルビジネスやビジネスの進め方、コミッティ運営(会計、帳簿処理など)に関するトレーニングを実施。5人組形式で貸付を実施しており、5人組 8~12 に一つ VICO を設立する。
- ・ 竹細工は、うちわ、ざる、帽子、計量カップなどを作成しており、祭りや市場などで販売している。原材料は約 80 キロ離れたモア村から購入。生産技術は伝統的に受け継がれており、原材料も昔からモア村で調達している。特にうちわは全国に出荷しており、販売ルートも確立している。
- ・ これらの副収入活動は以前より行っていたが、MF により生産を拡大できた。
- ・ 農業は 3 期作を行っており、主な作物は小麦、豆類、米、トマト、メロン、スイカ、とうもろこしである。特にトマトは、UNDP によるタイでの研修に参加した村人が SPDA 栽培法(支柱を立てて茎を誘引する方法)を導入し、この村は同栽培法のパイオニアとなった。今では他の村からの出稼ぎの人が技術を学んで持ち帰ったり、この村からの講師派遣を依頼されることもある。

3月3日(木)	10:45-12:00	Seik Phyu Pump Irrigation Site	Magway Divison
面会者	氏名	役職	所属先
調査団全員	U Mya Sein	As. Director	WRUD
	U Oo Thar	As. Manager of Salin T/S Office	MAS
	U Win Myaing	Manager of Saling T/S Office	MCSE

要点

- ・ 乾燥地での作物栽培促進を目的として、1994年12月4日より同プロジェクトが開始された。対象地域は約15,000エーカーで、うち4,000エーカーは水田である。ポンプステーションは八つあり、第1ステーションは完成している。残りの7ステーションは建設中で、2006年には給水開始の予定である。
- ・ 灌漑対象作物は、米、コットンである。
- ・ 以前は気候が不安定であること、もともとは畑作適地であることから豆類と油脂植物を作付していたが、灌漑開始後は米、コットンを栽培している。基本的に作付けの作物は、農家が決めている。
- ・ MASの役割は、技術普及、種子生産・配分、作付けデモンストレーションである。
- ・ 水利組合組織化は、PDCの指導に基づいて行われている。課題は水路末端等での湛水被害。
- ・ 農民は水利費(作物毎に異なる水利費を設定)を支払い、メンテナンスにかかる費用は国が負担している。メイン水路、ラテラル水路は国が建設・維持管理し、そこから先は農民が建設・維持管理する。
- ・ ポンプの動力は電力。イラワジ川にフローティングポンプを設置し、揚水。施設建設費は、ポンプ等施設費のための外貨543,728米ドル、内貨422百万チャットを投下。

3月3日(木)	15:00-12:00	Khan Tha Gyi Village	
面会者	氏名	役職	所属先
調査団全員	U Saw Lwin	Staff Officer, Phwinbyu T/S	LBVD
要点			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同T/Sには52VT、204村があり、世帯総数は2万8,847、人口は19万3,659人である。</li> <li>・ 同T/Sオフィスにはスタッフ5名が勤務しており、地域ごとに担当を決めている。平均でスタッフ1名につき担当人口は6万人、16VTである。</li> <li>・ 主要業務はワクチン接種である。ワクチン代は牛・水牛で2チャット/頭(証明書つき)と安価である。</li> <li>・ 同村では大規模農場はなく、家庭での小規模飼育であり、牛・水牛、羊、ヤギ、ブタ、鶏を飼育している。平均で1世帯あたり役牛4頭、ブタ2匹、鶏20-30羽となっている。</li> <li>・ 卵は自家消費せず、孵化させる。ブタ、鶏の肉についても自家消費はほとんどなく、販売用である。売価は豚肉・鶏肉は1,500チャット/ビス、卵は50チャット/個である。仲買人が毎日村に来て、品物を買って行く。</li> <li>・ 日々の食生活では鶏肉、豚肉、魚を時々食べるが、毎日食べる必要はない。</li> <li>・ 副収入源は、近所に建設中の工場での日雇い労働があり、400-450チャット/日(女性-男性)である。操業開始後は、同工場は8学年終了以上の者しか雇用しないので、働きにいけない人がほとんどである(ただし、こうしたケースは珍しいとのこと)。</li> <li>・ 村には10学年までの小・中学校がある。授業料は無料だが教科書代等は必要である。9学</li> </ul>			

年への進学試験は難しく、家庭教師をつける必要があるが大変費用がかかる。

- 豊かな農家の年収は約 70 万チャット(純収益)で、10 エーカー程度の土地を所有している。中流では約 40 万チャット、6 エーカー、貧農では約 20 万チャット、3 エーカーである。土地無し農家は 15 万チャット程度。

3月3日(木)	17:00-18:30	Agricultural Research Farm	
面会者	氏名	役職	所属先
調査団全員	Daw Thwe Thwe Nyunt		MAS
<b>要点</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>1927年に種子農場として設立され、46年に中央農場、2000年には中央油脂作物農場となった。</li> <li>2004年組織再編により、Department Agriculture Research(DAR)の一機関となる。</li> <li>178.51 エーカーの土地を有し、うち 127 エーカーが栽培可能。125 エーカーは砂状土壌、残り 2 エーカーは赤土である。砂質系土壌におけるゴマ、落花生、ひまわりを研究対象としている。雨量は年間 52 日間、30 インチ。</li> <li>MAS から農業試験研究部門が独立し、近年、予算も増加している。</li> <li>同 DAF のスタッフは農業大学卒 9 名、ディプロマ 7 名、農業高校卒 3 名である。</li> <li>四つの研究プログラムを実施: 1) 多収量品種の栽培方法と種子生産技術、2) 対象地域の環境に不適な条件、3) その他。このほか、4) 普及活動を行っている。</li> <li>DAF 敷地内のみならず、エデュケーション・キャンプや実験農場でデモンストレーションを実施している。</li> <li>同 DAF の予算は増加傾向。デモンストレーション農場では、農民の負担はない。</li> </ul>			

3月4日(金)	9:00-12:00	Kan Tha Lay Village, Kan Tha Gyi V/T	Magway Division
面会者	氏名	役職	所属先
調査団全員	U Pan Saing	Village Master, Kan Tha Lay	
	U Bo Net	Farmer	
	U Myint Sein	Manager of Magway T/S	MAS
	U Than Htun	Manager of Magway District	MAS
	Daw Khin Mar Wai	Farmer	
	U Sein Aung	Master of Kan Tha Gyi V/T	
<b>要点</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>94年にUNDPの支援が入り、タナカとウメの木の栽培を始めた。間作としてゴマ、豆類を植えている。タナカは7、8年目から出荷できる。これまでに20本出荷し、10万チャット以上の収入を得た(1農家のケース)。ウメは50本程度植えており、年間5万チャット程度の収入がある。</li> </ul>			